

2020年1月

肉桂の根齧った昔を呼び戻す 雲間より出づる初日に望みかけ 被災地を慮るや寒に入り 千両の一つこぼして鳥走る 玉砂利を踏む音あらた初詣 甘い芳香秩父の山は蠟梅が 年末はゴーンゴーンと除夜の鐘 旧友の賀状の文字に涙する 除夜の鐘一足先にゴーン発つ 富士の峯遙か彼方に春を告ぐ 肩の荷を降ろし安堵の初日の出 格子戸の家並ひっそり椿かな	温暖化ひまわりの花寒に咲く 新春の横断幕に心弾む 中国産の文字見て買う手引っ込める キャッシュレス造幣局は暇になる バスの中フライドチキン持つ勇氣 れいわ新撰組ばかにできない機動力 特番の続きて大河遺体増 青春キップ手にしただけで若返り 革命時変化進み乗り遅れ 初夢に忘れられたるこの齡 どことなくおかしな冬に悪予感
---	--

2020年2月

狂い花百合一輪の影揺れて 信楽の狸揃ひて日向ぼこ 冬うらら勝ちて輪投げのなほ楽し 早春の賦奏でのごと緋梅咲く 七草や病める世の中邪気払い 風痛し背中丸めてどんど焼 人混みに湯気と香りのジャガバター 枯野にも芽吹き始り鳥集ふ シベリアをお店で求め急ぐ帰路 連れ立ちて甲賀 ^{あづらた} 油田初詣 雪頼み冬の催し四苦八苦	イギリスも離脱離脱で変わりゆく 早朝にカーンと高音眠気覚め 照り返す光に覚めた朝寝坊 天敵は傘寿でみんな元気です 老いてます伸びしろがある鼻毛かな からっ風負けじと散歩風邪を引き 梅さかり過ぎて待つのは桜なり 増税で財布の中はからっ風 忘れたか閉めた積りが開いていた 思い切り捨てる積りにならぬ日々 立松の「道元」読みて老いを知り
---	---

2020年3月

狂い花百合一輪の影揺れて 信楽の狸揃ひて日向ぼこ 冬うらら勝ちて輪投げのなほ楽し 早春の賦奏でのごと緋梅咲く 七草や病める世の中邪気払い	イギリスも離脱離脱で変わりゆく 早朝にカーンと高音眠気覚め 照り返す光に覚めた朝寝坊 天敵は傘寿でみんな元気です 老いてます伸びしろがある鼻毛かな
--	---

<p>風痛し背中丸めてどんど焼 人混みに湯気と香りのジャガバター 枯野にも芽吹き始り鳥集ふ シベリアをお店で求め急ぐ帰路 連れ立ちて甲賀^{あぶらた}油田初詣 雪頼み冬の催し四苦八苦</p>	<p>からっ風負けじと散歩風邪を引き 梅さかり過ぎて待つのは桜なり 増税で財布の中はからっ風 忘れたか閉めた積りが開いていた 思い切り捨てる積りにならぬ日々 立松の「道元」読みて老いを知り</p>
--	---

2020年4月

<p>花過ぎしコロナの恐怖消せぬ間に 春暖や保育士の押す乳母車 生きいきとグラウンドゴルフ風光る 春彼岸露店のあめの字母の影 春一番帽子舞い上げ追いつけず ロングドレスすらり葉牡丹春さかり 立ち止まり立ち止まりして見る桜 齡重ねせめて指先乙女色 落を煮る我が家の味に舌鼓</p>	<p>ありがたや筍飯にありつける 一步引き遊び仲間と心地良い 満開にため息をつく犬と我 愛犬も桜吹雪に酔ってみせ ひとひらの桜をかざり気取る犬 布マスク大きな三十^{ちくはく}鎮具破具だ 道楽が何もないので長生す あと十年更新望むパスポート 自粛中花見ドライブ渋滞す</p>
---	---

2020年5月

<p>ジャスミンの香り豊かに更ける夜 世乱れど緑濃くなり夏は来る 母の日の洋菓子の中芋堂々 庭先に赤の大輪アマリリス 花がらを摘める喜び床上げる 幼子の声聞きたくて朝散歩 百獣の王もひっそり時を待つ 「ペスト」のカミュ南仏の畔小さな墓石 実豌豆甘味ほっこり豆御飯 もみじ葉の色に釘づけひとり酔い 植え終えた苗に驟雨手を合わす 初節句凧も揚げられぬ端午かな</p>	<p>子らもみな外に出られぬ端午かな 皐月闇直日の神に祈るのみ 浮橋の揺れを残して春ごろも 青時雨阿寺七滝包み込む 新緑や羅漢もマスク外せずに 百合子さんマスクを変えて語気抑え コロナいやマスクもいやでどうするの 長い休み学びの部屋に元気よく 甲子園目指す君達くさらない 泰さんの鳴動叩く賭けマージャン オンライン飲み会で見る我が酔顔 真っ白な予定欄に薬貼る</p>
--	--

2020年6月

文字覚え季語を学びて丸五年	物処分部屋も頭も風とおる
---------------	--------------

<p>新緑のシャワー浴びつつひな巢立ち 四十雀ネクタイ締めてラヴコール 夫卒寿孫連れ立ちてカラオケに 弦が伸び胡瓜とゴーヤの競い合ひ コロナ禍や老いの身気まま気功する 雨の中濡れてゴルフの楽しさや うぐいすに鳴かれて覚える昼寝かな 散歩ダメ雨をうらやみふてる犬 うぐいすの口止め失敗元法相 サングラスすれば私もヘップバーン</p>	<p>コロナより戻す日常薄暑光 友よりの牡丹に仏間の華やげる 久方に訪ひしデパート夏帽子 アジサイは深山で静かに咲くが好き 地下鉄に乗り換え出来て社会人 子が巢立ち返してもらう六畳間 心地よき風を通せし安簾 国籍を振り廻されし半世紀 禍を素知らぬ顔で通す人</p>
--	--

2020年7月

<p>梅雨の庭色濃き花びら散りしまま 知らぬ子に挨拶されて明るい日 梅雨晴れ間蹴る球強し中学生 今日も雨犬もがっかりふて寝する 西瓜喰うかけるかどうか塩でもめ もらったが西瓜丸ごともて余し 丑の日に三百円のうなぎ串 飯・マスク聡太とつけば大人気 PayPayで外食増えた一ヶ月 珍しくハエトリリボン息してる 映画見て原作読んでシネマコン 浅はかな追求ばかりもういらぬ</p>	<p>やっと来た蝉の鳴く声子らの声 水ようかん揺れるすだれや鳳仙花 目盛読む体温計りて幾星霜 また豪雨混乱の地へ流れ込む 長雨に扇子うちわの出番なし 初夏の庭幼なじみと昼御膳 潔く散るや次々白木槿 くちなわに会でし鼓動持ち歩く 梅雨出水信号機の赤滲みをり コロナ禍や遠出できぬ夏来たる 水無月に四方八方水溢れ 炎昼にうつらうつらと気持ちよく</p>
--	---

2020年8月

<p>安眠第一電気代には目をつぶる 戦時下を語りし母と黙す父 高気温単独一位も夢じゃない 梅雨明けて真夏の日照りより怖く 大国の権利争い悪夢呼ぶ この猛暑秋の足音遠くから 連発のホールインワンや梅雨の雷</p>	<p>この段差近頃やたら気にかかり 松陰に集ひしあの頃おさげ髪 昼間からカーテンを引く夏の昼 朝顔の蕾きりきり孫の笑み 夏の朝蝉に鳴かれて目を覚まし 大戦の不始末未だ片付かず 玉音を聞きし兵隊さっと消え</p>
---	---

潮干狩り遠の記憶となりにけり 終戦日暑さに身体溶けそうな コロナ禍に猛暑追い打ち足や萎え	原爆忌「黒い雨」また読み返す 安倍峠登り切ったら菅の笠 二階から目薬さして可愛いな
--	---

2020年9月

涼風を待ちわびてこそ生きる夏 夏はじけ秋が主と思う風 虫の音に思わず窓を開ける宵 一葉を残してアルバム処分する 連発のホールインワン空高し 総活躍？女性大臣二人きり 棚の上すっと取れないもどかしさ ひとしきり草取り終えてポワロ観る 松籟や若き魂の千の風 熱中症耐えて涼風ほっとする 暴風も急変避ける我が文化 四つに組み太いおなかも土俵割る	さざんかも椿もくずの服まとい 葉がくれに自生冬瓜南瓜熟れ 新米のうまさに負けて出るおなか 久し来し花野の風に身をまかせ 敬老日遠き友より電話きて 戯れて登る坂道こぼれ花 もうあんな馬鹿な戦争誰がする 星月夜ひとりシーバス楽しみり 天の川風車のリズム心地よく 新涼や読書そこそこ熟睡す 売木村稲穂戦ぎて白い雲
--	---

2020年10月

気にせしをひとつ終わらせ残暑かな 彼岸花群れて咲いても寂しけり 馬追いの鳴くは歩道の草あたり 赤トンボ邪魔にならずに秋の音 植木鉢根が増えすぎて前向けず 咲き誇り白き彼岸花人を呼ぶ あきが来た確かに来たよ夫婦にも 正代をマサヨと読むな力士です マイナンバー何の目的わからずに 暮れなずむ野外ライブや風透る こたつ出しうちわと同居の乱気流 マンゴーにビルマ戦線父偲ぶ 目の前を国際宇宙ステーション	あの店もG O T O E A Tやってない いきなりの寒さ「ちぐら」にこもる犬 秋刀魚喰いこれで人並我が夕餉 北国の友から届く秋の味 行き過ぎて金木犀と振り返る 青い空富士初冠雪見ゆる窓 家事万般女房病みて有難味 病妻に会えないコロナのトバッチリ 遅咲きのちさきアサガオ桔梗かな アキアカネ山を下りずに居すわりぬ 神無月下駄に浴衣で不思議なく 暫は暫く見ぬと見たくなる
---	--

2020年11月

秋嶺の旅に入らむ門出駅 爽籟や蓬萊橋の軋みをり SLを撮りし写真の柿熟れて 一雨一度下がる気温や冬兆す 秋深く部屋いっぱいの芋の香よ 施設へと移りし友のぬいぐるみ ゴーツーも席はスカスカじっと耐え ウィルスもスカスカ通るアノマスク スカスカの二階の障子穴だらけ クリスマスソングに追われ衝動買い アマビエもぜひ乗って欲しい宝船 マッチったら四十年を無駄にして	山登り落葉の段々足が出ず SLもITの駅便利勝つ 澄みきった山一面にみかんの黄 朝六時犬も斜めに路渡る 栃木ビリ葵の御紋威光なし 草野球柿もたわわに応援し まな板の真白き肌や桧の香 そっと来てそっと置いてく回覧版 山茶花の紅の道二人して 秋深し障子に映る鳥の影 新旧でいつもまごつく神無月 コロナ禍や便りを書いて憂さ晴らす
--	--

2020年12月

地図に載る仕事「一条堤」かな ムートンを買えと格安バス旅行 再びの遥かな旅路はやぶさ2 木枯しのみやげたくさん吹きだまり 古稀の子の両親達者百八十 空っ風つるし柿には甘い風 木洩れ日にひときわ紅き宮もみじ 池の端広げる弁当鯉おどる 吾子胸に若き夫婦や紅葉狩り 照紅葉ひょうたん池の水透けて 紅葉を訪ねて広し浜松城	躓はず落葉踏み行く若き人 コロナ菌人間社会変貌す 木の実減り人里歩く熊親子 高速路大雪かぶり先見えず 行く秋や蒲団陽に当て子らを待つ エース便GOTO急行赤信号 海青く山青くして秋が行く 大根を丸く炊いて冬迎え 落葉貯め冬を満喫すするお茶 おでん炊き孫の笑み咲く冬夕餉
--	---